

ぽろたん

登録番号：第 15658 号	佐藤明彦 西端豊英 樫村芳記
登録年月日：平成 19 年 10 月 22 日	鈴木勝征 木原武士 内田 誠
登録者：(独)農業・食品産業技術総合研究機構（茨城県つくば市観音台 三丁目 1 番地 1）	小園照雄 福田博之
育成者：平林利郎 壽 和夫 齋藤寿広 澤村 豊 寺井理治 正田守幸 阿部和幸 佐藤義彦 高田教臣	来 歴：550-40 (290-5 (「森早生」×「改良豊多摩」)×「国見」)と「丹沢」の交雑実生
	育成 地：茨城県つくば市藤本 ((独)農研機構 果樹研究所)

特 性

■栽培特性

若木での樹姿はやや直立で、樹勢はやや強く、枝梢は太く長く、密に発生する。育成地における展葉期は4月16日頃で、「丹沢」や「国見」より3日程度早く、雄花・雌花の満開期は「丹沢」や「国見」より1~2日早い。雌花の着生は多く、若木における健全果収量は「丹沢」、「国見」と同程度である。実炭疽病にはやや弱い傾向がみられる。育成地での果実の成熟期は9月上・中旬で、「丹沢」より1週間程度遅く、「国見」と同時期である。

■果実特性

果実側面の形は帯円三角形で、果皮は赤褐色である。1果平均重は30.5gと「丹沢」(27.9g)と、「国見」(32.3g)の間で大果である。果肉は黄色、肉質はやや粉質であり、甘味は中からやや多く、香りも多いため果実品質に優れている。双子果の発生は「丹沢」と同程度でやや多く、裂果の発生は「丹沢」、「国見」よりも少ない。虫害果率は「丹沢」、「国見」とほぼ同程度であるが、早生品種で虫害を受けやすい地域では虫害果率が高い傾向が見られるため、注意する必要がある。きゅう梗離脱の難易は中程度、果皮の剥皮の難易は難、蒸しぐりの渋皮剥皮の難易は易である。なお、焼きぐりとした場合の渋皮の剥皮は、チュウゴクグリ並みに容易である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

系統適応性検定試験においては、場所や年次により虫害果率が高くなる傾向が認められる。虫害果は、その多くがモノゴマダラノメイガによるものと考えられるため、無農薬栽培においては密植を避け、樹幹害虫に対する手入れを十分に行うこと、また農薬を用いる栽培においては発生予察等によりの確な防除を行うことがそれぞれ重要である。

本品種のもっとも大きな特徴は、渋皮剥皮性が極めて良い点である。有利販売のためには、収穫時に他品種の混入を防ぐ必要がある。特に同時期に成熟し果実外観が極めて似ている「国見」が混入しないよう注意が必要である。したがって本品種の栽培時には、他品種の混入を防ぐために早生品種（特に「国見」）との混植を避けること、また他品種の混入が生じやすい高接ぎを行わない等の方策が必要である。

今までニホングリ品種の中にはチュウゴクグリ並みに渋皮剥皮性が優れる品種がなかったことから、本品種の良剥皮性を活かした新たな加工用途や家庭消費の拡大、それらに伴う国内クリ産地の活性化が期待される。

■地域適応性

茨城~新潟以西のクリ栽培地域で栽培可能である。東北地方については系統適応性検定試験における栽培事例が無いため、今後寒冷地における適応性を明らかにして行く必要がある。

(高田教臣)